

平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原南 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	78人	算数	78人	理科	78人
第5学年	国語	62人	算数	62人	理科	62人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

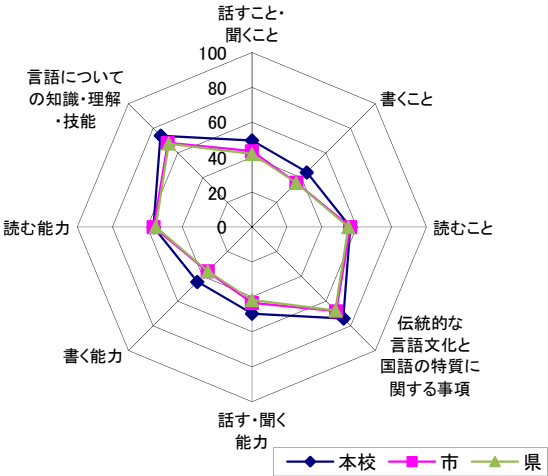
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原南小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	49.6	43.5	41.8
	書くこと	44.3	35.9	35.8
	読むこと	56.4	56.3	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.0	68.2	67.5
観点	話す・聞く能力	49.6	43.5	41.8
	書く能力	44.3	35.9	35.8
	読む能力	56.4	56.3	55.2
	言語についての知識・理解・技能	74.0	68.2	67.5



★指導の工夫と改善

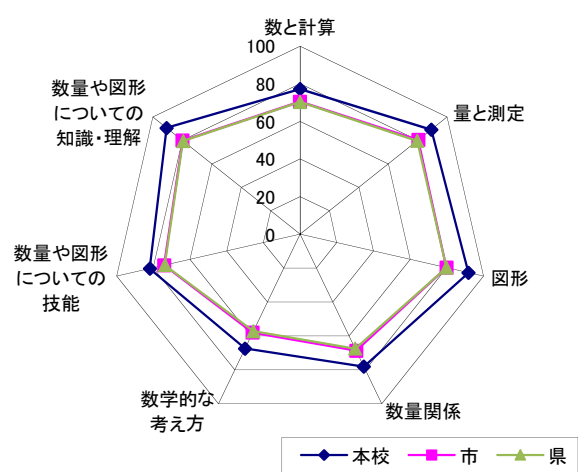
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○平均正答率は49.6%と市の平均正答率(43.5%)よりも6.1ポイント高い。 ●話の中心に気を付けて聞き、意見を述べる問題では話し合いのテーマをつかんだり、誰がどんな意見をもっているのかをつかんだりすることが苦手な児童が見られる。	・メモを取りながら話を聞く練習を取り入れ、集中して話を聞き取ったり、大事なことを落とさずにメモに書いたりする力を身に付けさせる。
書くこと	○平均正答率は44.3%と市の平均正答率(35.9%)よりも8.4ポイント高い。 ●招待状に入れる二つの内容を一文にまとめて記述する問題では、A層とD層の差が68.4%あり、文の記述が定着していない児童が見られる。	・短文づくりや視写、作文指導など、文を書く練習を意図的に取り入れ、文を書くことに慣れさせるとともに、基礎的な文の記述を身に付けさせる。
読むこと	○平均正答率は56.4%と市の平均正答率(56.3%)とほぼ同じであった。登場人物同士の関係や物語上の役割を捉えたり、登場人物の性格などについて想像して読んだりする問題については、どちらも5ポイント以上上回っていた。 ●指示語が示す内容を捉える問題については平均正答率が低かった。また、目的に応じて文書を要約する問題については、無回答の児童も見られた。	・教科書の説明文や物語文の読み取りを丁寧に行った上で、初見の文章を読み取る問題に定期的に取り組ませたり、読書指導にも力を入れたりし、読解力の向上を図る。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○平均正答率は74.0%と市の平均正答率(68.2%)よりも5.8ポイント高い。漢字の読み書きについては、他の観点に比べると正答率が高く、中でも普段から目にしたり、書いたりしている漢字について定着率が高いことが伺える。 ●会話文の「」の使い方を理解していない児童が見られた。	・会話文に着目して、文章を読んだり書いたりする機会を増やし、「」の使い方を理解し使用できるようにしていく。

宇都宮市立清原南小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	77.2	70.5	70.3
	量と測定	89.2	80.4	79.6
	図形	91.8	79.8	79.7
	数量関係	78.0	68.7	67.5
観点	数学的な考え方	67.4	58.0	57.2
	数量や図形についての技能	81.9	74.1	73.7
	数量や図形についての知識・理解	90.7	79.9	79.5



★指導の工夫と改善

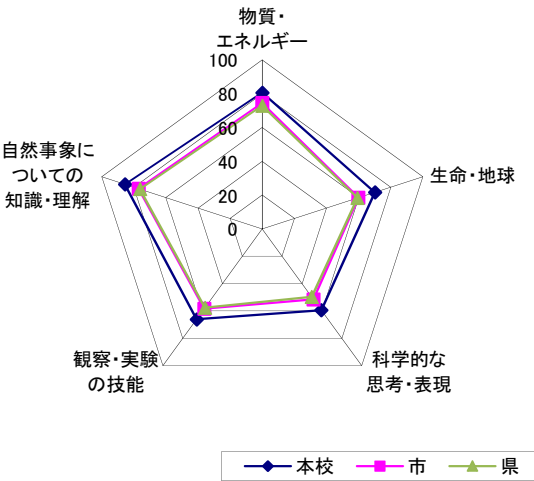
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は77.2%と、市の平均より6.7ポイント高い。 ○整数を単位分数のいくつ分で表すことを十分理解しており、正答率も98.7%と非常に高い。 ●除法について、余りを適切に処理し、その理由を書く設問に対して、正答率が市の平均より低く、多くの児童が苦手としている。計算はできても、説明ができない傾向がある。	・計算力は十分に理解しているため、引き続き類似問題や応用問題に繰り返し取り組ませる。ドリルやプリントなどを有効活用し、自分で進んで取り組む環境や場の設定を行っていく。 ・「なぜそのような計算方法をとったのか」、「どうしてこのような商と余りがでたのか」などと教師の発問を工夫し、児童が考えて計算を解くような指導をする。また、自分の言葉で計算の流れを短く説明したり、ノートに記述したりするなど、文章で表す授業展開を取り入れる。
量と測定	○平均正答率は89.2%と、市の平均より8.8ポイント高く、全体的に十分理解している。 ●Kmで表された長さをmの単位に換算する設問では正答率は93.4%と非常に高いが、A・B層とD層の差が22.2%と差があり、換算方法を十分理解できていない児童もいる。	・時刻の読み取りや、時・分・秒の違いや換算は十分に理解しているが、日常生活の中でも具体的な場面で継続指導していく。 ・距離換算が苦手な児童には、数直線や図などを用いて視覚的に捉えさせ、換算への手立てをする。
図形	○平均正答率は91.8%と、市の平均より12ポイント高く、全体的に十分理解している。特に、一つの辺から続きをかくて正三角形を完成する設問では、コンパスや定規などの使い方を理解しており、正確に図形を表すことができた。 ●指定された大きさのボールが3つ積まれた高さを求める設問では、正答率がA層とD層では35.3%の差があるため、正しく答えを求めるまでの過程を十分に理解できていない児童がいる。	・図形を使った類似問題に取り組み、考え方や解き方の理解を図る。コンパスや定規の使い方も不十分な児童には、その都度確認して問題に合わせた使い方ができるよう指導する。 ・図形を分かりやすく板書したり、デジタル教科書を利用したりしながら授業展開を工夫し、具体的に説明をすることで理解を図る。
数量関係	○平均正答率は78.0%であり、市の平均より9.8ポイント高い。 ○棒グラフの1目盛りの大きさを読み取ることができ、内容の読み取りも十分理解しているが、個人差が見られる。 ●□を用いた乗法の式に適した場面を選ぶことを苦手としており、与えられた条件で表された式から、答えまで導けず、何を求めればよいのかわからない児童が多く見られる。	・□を用いた乗法の式に適した場面を選ぶ設問では、正答率がA層とD層の差が大きく、多くの児童が未定着であるため、何度も繰り返し復習していく。 ・場面から立式するための情報・数字を選び、□を用いて式に表すやり方を考えられるよう丁寧に指導する。

宇都宮市立清原南小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	80.7	74.5	72.9
	生命・地球	70.1	59.8	59.2
観点	科学的な思考・表現	59.4	51.6	49.7
	観察・実験の技能	66.1	58.4	57.7
	自然事象についての知識・理解	85.5	77.0	76.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○平均正答率80.7%で市の平均正答率(74.5%)より6.2ポイント高く、県の平均正答率(72.9%)より7.8ポイント高い。 ○虫眼鏡で日光を小さく集めると熱くなることについては正答率100%と確実に理解できている。物は形が変わっても重さが変わらないことや、反射させた光の進み方についても十分に理解できている。 ●銅の性質をもとに分類し、その理由を説明することについての正答率が低く、無回答の児童も見られた。	・理解はしているものの、その説明をすることが苦手な児童が見られることから、国語の学習と関連付けながら、事象や理由を説明する力を身に付けられるようにしていく。
生命・地球	○平均正答率70.1%で市の平均正答率(59.8%)より10.ポイント高く、県の平均正答率(59.2%)より10.9ポイント高い。 ○昆虫や植物の体のつくりについて十分に理解できている。 ●日陰の位置の変化と植物の成長を関連付けて考察するなど、実験したり調べたりした結果から考察し、記述することが苦手であることが伺える。	・グラフや実験結果から考察を記述していくことが苦手なことから、観察や実験などで考察する機会を意図的にとり、考察の仕方を身につけさせていく。

宇都宮市立清原南小学校 第4学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○「毎日、朝食を食べている。」と肯定的回答した児童が(97.4%)と非常に高く、ほとんどの児童が朝食をきちんととっている。それにもなって、「早寝、早起きをしている。」「食事のとき、好き嫌いをしないで食べている。」と肯定的な回答をしている児童は、ともに90%以上を超えている。学区が広く、通学時間が30分以上かかる児童も多いため、毎日きちんと起きて朝食をとる習慣が身に付いていると考えられる。

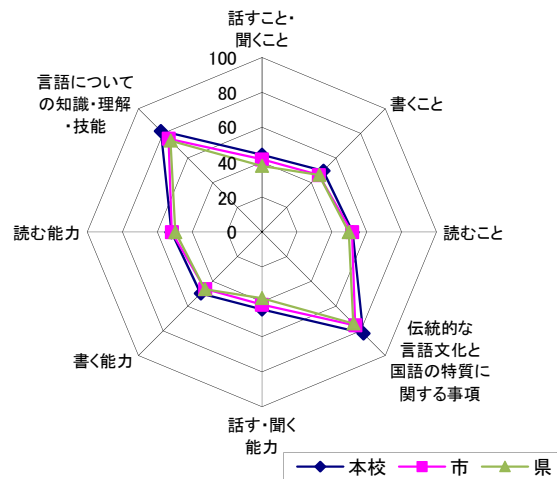
○「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つに思う。」と肯定的回答した児童が(97.4%)と非常に高く、宿題も自分のためになっていると考えているため、家で宿題の時間を決めて行っている児童が多い。

●教科に関する質問では、国語に対して好きと答える児童は、(63.2%)と市の平均より2.3ポイントと低く、算数と比べても10ポイント低い。各教科の結果と照らし合わせると、自分の考えを述べたり、説明をしたりする設問の正答率が全体的に低いため、文章を書くことが苦手としている児童が多いことがわかる。よって、熟語の意味調べや短文作り、課題に対する振り返りなどの場面で、文章を書く機会を増やし、自分の気持ちや考えを文章で表現する力を育てたい。

宇都宮市立清原南小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	44.3	41.6	37.9
	書くこと	49.7	46.1	46.3
	読むこと	51.9	51.6	49.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	82.0	75.6	74.0
観点	話す・聞く能力	44.3	41.6	37.9
	書く能力	49.7	46.1	46.3
	読む能力	51.9	51.6	49.7
	言語についての知識・理解・技能	82.0	75.6	74.0



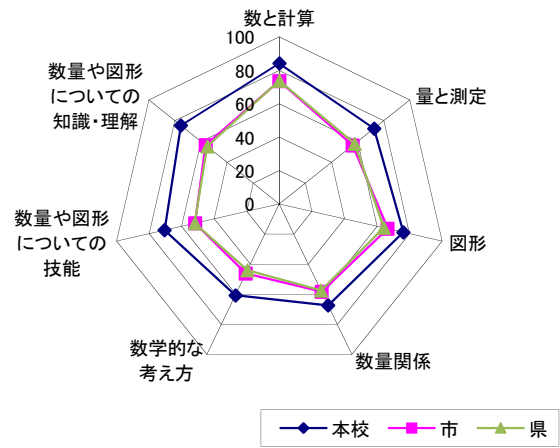
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○平均正答率は市の平均正答率(41.6%)よりも2.7ポイント高く、これは学校生活や授業中における話し合い活動が生かされたと考えられる。 ●話し合いの問題では、司会者の進行に沿った発言をしなければいけないと理解できていない児童が見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 今後の指導の重点 ・司会者の進行内容をよく聞き、何を発言すればよいのかを考えて発言できるようにするために、メモを取ったり、質問内容が分からないときは聞き返したりすることを国語の話し合いの学習や学級での様々な話し合い活動で指導していく。
書くこと	○平均正答率は市の平均正答率(46.1%)よりも3.6ポイント上回っている。特に、必要な情報を読み取り、学級新聞の見出しを選択する問題の正答率が高かった。 ●資料と話し合いを基に、学級新聞に付け足す文を記述する問題では、条件が全て揃わなかったために正答にならなかった児童がほとんどだった。	・要点をまとめる、感想や自分の意見・考えを書く活動では、いくつかの条件を出し、全てを満たして書けるよう指導していく。また、条件が満たなかった児童には、何が足りないのか具体的に示すことで意識して書けるようにしていく。
読むこと	○平均正答率は市の平均正答率(51.6%)よりも0.3ポイント上回っている。説明文においては、段落相互の関係を押さえながら読むことができています。 ●物語文においては、叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読むことが苦手な児童が見られた。	・物語文の読み取りでは、場面の様子や人物の行動、会話からどのような気持ちでいるか想像できるようにしたり、登場人物と同じような気持ちになった時の自分の言動を振り返らせたりするなどして正しく読み取れるようにしていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○平均正答率は市の平均正答率(72.8%)よりも3ポイント高かった。主語・述語の関係や漢字辞典の使い方についてよく理解している児童が多い。 ●漢字の読み書きの問題では、特に4年生までに習った漢字が未定着である。	・授業の始めなどを利用し、ドリルに取り組ませながら学力の定着を図りたい。また、授業中のノート指導において、漢字の書きに注意を促し、正しく丁寧に書けるよう、指導を継続する。 ・どの教科においても習った漢字はいつでも使う習慣が身に付くように児童に伝えていく。

宇都宮市立清原南小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	84.2	73.6	73.7
	量と測定	72.5	56.2	57.7
	図形	76.2	66.5	64.2
	数量関係	67.4	58.4	57.5
観点	数学的な考え方	60.7	46.2	44.1
	数量や図形についての技能	70.5	51.8	52.0
	数量や図形についての知識・理解	75.4	56.5	55.2



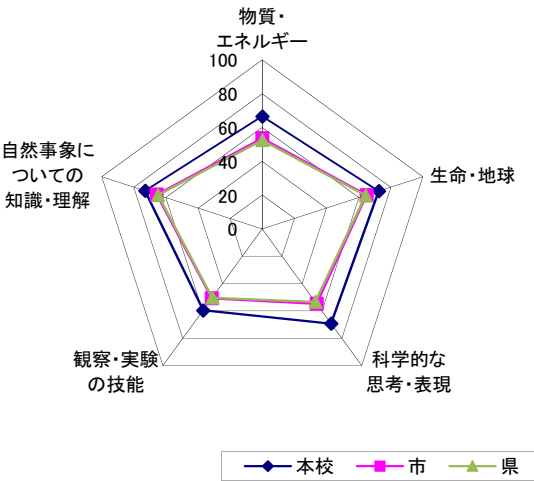
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率84.2%で市の平均正答率73.6%より10.6ポイント高い。 ○かけ算、わり算、小数、分数、億と兆・概数の表し方の正答率は、市の正答率を大きく上回り、理解できている。 ●8.54~2.6のような小数(小数第2位)ー小数(小数第1位)の計算が県の正答率とほとんど同じで市の正答率より若干上がっているぐらいである。	・○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・小数の筆算では、小数点の位置に気を付けて位取りすることを押さえ、計算練習を継続して取り組ませていく。
量と測定	○平均正答率72.5%で市の平均正答率56.2%より16.3ポイント上回っていた。 ○面積・角の大きさの正答率は、ほとんど市の正答率を大幅に上回り、理解できている。 ●教室にある黒板のおよその面積を推測する問題の正答率が市や県の平均を上回っているが、62.3%と低い傾向にある。	・授業中にさらに身近な物や場所の面積を推測させたり、実際に測定させる実体験に取り組ませたりして、量感を養っていく。
図形	○平均正答率76.2%で市の平均正答率66.5%より9.7ポイント高い結果になった。 ●活用問題の「ひし形を対角線で分けた図形が二等辺三角形になる理由を述べる問題」の正答率が市や県の平均を上回っているが39.3%と比較的低い傾向にある。	・二等辺三角形や正三角形の性質についてよく理解させたり、身近にある様々な形の特徴に関心をもったりできるよう意欲付けを図っていきたい。
数量関係	○平均正答率67.4%で市の平均正答率58.4%より9ポイント高い結果になった。 ●他の領域に比べて正答率が低い傾向にある。 ●活用問題の「折れ線グラフから、イネの草たけののびを求め比較する」や「2つのグラフを比べ、発言が正しくないわけを説明する」の正答率が市の平均を上回っているが、34.4%、36.1%と低い。	・グラフを正しく読み取るためには、一部分だけを読み取るだけでなく、全体を見て読み取れるよう指導していく。また、社会科や理科において、資料を読み取る活動が多いので、最大値や最小値、折れ線グラフの傾き方などに着目して読めるよう指導していく。

宇都宮市立清原南小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	66.7	53.7	52.5
	生命・地球	72.5	64.9	64.3
観点	科学的な思考・表現	69.3	54.7	53.4
	観察・実験の技能	59.6	50.8	50.3
	自然事象についての知識・理解	73.0	65.7	64.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○平均正答率は市の平均正答率(53.7%)よりも13ポイント上回った。 ●どの解答も市の平均正答率よりも大きく上回っているが、その中でも金属以外の物質が温度によって体積が変化する問題は、正答率が低かった。	・空気や水の温まり方など目に見えない現象については、絵や図などを使って分かりやすくし、言葉だけでまとめないようにしていく。また、身の回りに同じ現象がないか調べたり、理由を考えさせたりして理解を深めていきたい。
生命・地球	○平均正答率は市の平均正答率(64.9%)よりも14.6ポイントも高かった。 ●ほとんどの問題で市の平均正答率よりも大きく上回っていた。しかし、気温とヘチマの茎の伸び方の関係のグラフを読み取って解答する問題では、グラフから、気温と茎の伸び方の関係を見出せない児童が多く見られた。	・グラフが2つ以上ある場合には、それぞれのグラフから読み取れることを考えてから、結果を導き出すようにするなど、グラフの読み取りだけに終わらないようにしていく。さらに、他教科でグラフの読み取りが出てきた際にも同じように学習しながら、定着を図っていくようにする。

宇都宮市立清原南小学校 第5学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○「家で学校の宿題をしている」「学校の宿題は、自分のためになっている」に肯定的回答をした児童の割合は100%であった。これらのことから、学校や地域学校園で推し進めている家庭学習の定着が図られていると考えられる。

○「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」(肯定的回答95.1%)、「地域や社会で起っている問題やできごとに関心がある」(肯定的回答83.6%)は、いずれも8割を超えていて、市平均と比べて高く、身の回りの出来事に関心がある児童が多い。今後は、普段学習していることが世の中の出来事とどのようなつながりがあるのか指導することで、さらに学習への関心を高めていきたい。

●「家で授業の復習をしている」(肯定的回答57.4%)、「家でテストで間違えた問題について勉強している」(肯定的回答59.0%)と市や県の平均を下回っていて、十分な状況とはいえない。具体的にやり方の見本を示すなど、児童が自主的に取り組めるように指導していきたい。

●「自分の行動や発言に自信をもっている」(肯定的回答57.4%)と県や市の平均より低い。これまでの指導を生かしながら、さらに二人組、グループの中で話すなどの活動を授業で意図的に取り入れたり、自分の意見を言う機会などを増やしたりしながら、発言のよいところを認め、自信が持てるよう支援していきたい。